

英語のユーモアと英語教師

—ユーモアの実践—

井上 卓

1. はじめに

英語のユーモアやジョークは私たち英語教師には関心のあるテーマで、誰でも1冊や2冊はこの手の本を所有していることと思う。学生時代、英会話の授業などでネイティブスピーカーの先生の言うジョークが理解できず周りが笑っているといった惨めな経験は誰にでもあるだろう。ALTをはじめとする英語国民との会話でその場に適切な humor とか joke をもっと言えたらいいのに、と感じることも多い。実際、これまでに何人かのALTが「日本人の英語の先生とは対話を楽しむまでには、とてもならない。彼らは humor や joke を理解できないし、授業のことなど、真面目な型通りの事はかり言うから」と、指摘するのを聞いて、それが私の心の中に引っかかってきた。ユーモア感覚といったものは日本の英語教育で教えられておらず、私たち英語教師にも不慣れた領域だと思う。もっと気軽に英語母語話者との会話でユーモアを用いて彼らとのコミュニケーションを楽しめないものだろうか。また生徒たちに英語のユーモアを交えてもっと楽しい授業作りができないだろうか。このレポートでは、英語でのユーモアとはどういうものか、ユーモアの仕組みとか種類といったものをもう一度見つめ直してみたい。

以前「ユーモアの分析とは、カエルの解剖のようなもので、いったんカエルを解剖してしまうとカエルはただの肉片となり、それまでに生き生きと動いていたカエルの面白さやそれへの興味がなくなってしまう」という言葉を聞いたことがある。ユーモアの分析自体、ユーモアのない人のやることも知れず、私自身のユーモア感覚の欠如を示す可能性が大きい。あえてチャレンジしてみたい。

2. ジョークの種類

ユーモアやジョークには実に色々な種類がある。ジョークにはパターンに基づいたものも多く、まず

それらのいくつかを挙げてみたい。

a. Pun Joke

pun (語呂合わせ、駄洒落)で、アメリカ人がよく好む。

A : Did you ever hear the story about the peacock?

B : No.

A : A beautiful tale !

tale (話)と tail (しっぽ)がともに [teil] の発音であるのをかけ合わせている。

b. Knock Knock Joke

子供のジョークだが、いくらでも自分のジョークが作れ大人にも面白い。

Knock knock.

Who's there?

Lettuce.

Lettuce who?

Lettuce in; it's cold outside.

"Lettuce in." は "Let us in." (入れておくれ)。

c. Waiter Joke

At a restaurant, the customer said to the waiter, "Hey! Your thumb is in my soup!" And the waiter said, "That's all right, sir. It isn't hot."

レストランで、客がウェーターに言った。「ちょっと、君！君の親指が私のスープに入ってるよ」するとウェーターは言った。「大丈夫です。このスープ、熱くないですから」

宮原 (1996: 17)

イギリスのレストランは、味やサービスがあまりよくないと言われ、イギリスはこの手のジョークが多いと言われる。

d. ことわざ・格言をもじったジョーク

A: It is true that *money talks*.

B: What do you mean?

A: It always says goodbye to me.

Money talks. (金はものを言う)という格言をもじったもの。

e. Ethnic Joke

ある特定の人種・民族をからかったりバカにしたりするジョークである。こういったジョークはいろいろな人種から構成されているアメリカで発達した。日本人に関するものもかなりあり、いくつか挙げてみると、

A: What noise does a Japanese camera make?

B: Crick.

A: 日本製のカメラはどんな音をたてるか。

B: クリックさ。

阿部 (1984: 161)

crick はもちろん正確には 'click' だが、日本人は 'r' と 'l' を区別して発音できないと思われていて、日本製のカメラも 'crick' となってしまうというのである。

もう1つ例を挙げると、

When a Japanese businessman took his seat and started to eat noodles and soup, everybody around him got up and danced.

ある日本人のビジネスマンが座ってうどんを食べ始めたところ、彼のまわりの人が全員立ち上がった踊り出した。

阿部 (1984: 162)

日本人特有のすす音はアメリカ人の間でも有名なのだ。

f. Deadpan Humor 「おとぼけ顔のユーモア」

話し手がにこりともしないで、ジョークを言って笑わせる。

いくつか例を挙げると、

- Is it true that cannibals don't eat clowns because they taste funny?
- If it's tourist season, why can't we shoot them?
- Isn't Disney World a people trap operated by a mouse?

これはプロの humorist がやる笑わせ方だが、英米人は、真面目くさった顔をして、このような Deadpan Humor をよく言う。

3. 当意即妙のユーモア

映画「Harry Potter」で、終わりがちハリーが魔法使いの女友達に How are you? と聞かれて、Never better. (絶好調)と答えていたが、子供でも言葉のやり取りを楽しむ術にたけているな、と感じた。トミー植松 (2001: 89)によると「ジョークは唐突に切り出すものではない。最も自然な導入の仕方は、「相手の話を受けて立つ」ことである。天候の話になったら天候に関するユーモアを、ビジネスの話になったらビジネスに関するユーモアを、といった具合に、臨機応変、自分のストックの中から「これぞ」といったものを披露するのが本筋である」と述べているが、当意即妙のユーモアが一番上等であるとみなされる。

次にいくつか例を挙げてみたい。

- 外国の特派員に「日本人は皆あなたのことが好き」と言われて、「I would be single.」
(ノーベル賞をもらった田中耕一氏)
- (パーティーでゲストが新しい畳にビールをこぼしたとき)「It's good for the tatami. Beer is nutritious to it.」「それ、畳にいいですよ。ビールは栄養になるんです」
- 「私はフランス出身です」という相手に、「I am glad I wasn't born in France, because I can't speak French.」
- (レーガン大統領が狙撃されて病院に運ばれたとき、駆けつけたナンシー夫人に)「Honey, I forgot to duck.」また手術が終わって、周りの人たちに、「If I'd gotten this much attention in Hollywood, I would not have left.」[ハリウッドでこんなに注目されていたら、やめるんじゃないかった] duck は「ヒョイと身をかがめる」という意味で、「身をかがめて弾丸をよけ損なった」とジョークを言っている。

4. ユーモアの特徴

4-1 自分自身を笑うユーモア

これは自分自身や自分の失敗などを笑いの材料にするもので聞き手が思わず微笑んでしまい、その場

が打ち解けた雰囲気になる。

いくつか例を挙げてみると、

- 「生まれ変わり」がテーマのスピーチで、
 “My wife seriously believes that I’m a reincarnation of a cockroach.” 「私の妻は私をゴキブリの生まれ変わりだと真剣に信じています」と言って自分の愚かさをさらけ出してみたりする。

- ゲストを紹介するスピーチで、
 Ladies and gentlemen. My memory is excellent. There are only three things I can’t recollect. I can’t remember names. I can’t remember faces, and I can’t remember what the third thing is.

皆様、私の記憶力は抜群です。思い出せないものは3つだけです。名前が覚えられません。顔が覚えられません。そして、3つめが何であるか、思い出せないのです

トミー植松 (2001: 78)

と言って自分の記憶力を笑い物にする。

- レーガン氏が大統領の任期を終えて少したった頃、ある児童福祉施設を訪問した。大勢の子供たちから大きなクッションをプレゼントされて氏は、
 “Thank you. I like this very much. And this is very useful to me, out of work now.” 「これは失業中の私にとっても役に立つ」とお礼の言葉を述べて人々を笑わせた。

こういったユーモアには自分を笑える余裕があり、そんな人は強い人である。このように自分自身を笑いの種にするのは、Self-deprecating Humor といっって一番上等な種類のユーモア感覚だと言われている。

4-2 期待外し

話の運びからこの先はこうなるだろうと聞き手に先を読ませておいて、その期待を心地よく裏切る(外す)。これは Anticlimax (期待外し) と呼ばれるユーモアによく使われる手法で、聞き手は心地よく肩すかしを食って喜ぶのである。例えば、自己紹介で、
 I’m Kent Gilbert. I’m from U.K. People call me *Harry Potter*. I’m Harry Potter when he has grown up a little. Thank you very much for inviting me to your party.

聞き手は、型どおりの紹介が続くと思いきや、ところが話し手が自分のあだ名のハリーポッター

を一気取りの冗談を言ったので大笑いする。

あるいはゲストを紹介するスピーチで、

In many ways the man I’m about to introduce has been like a son to me: insolent, ungrateful and disrespectful. (Seriously, I’d like to introduce..)

これからご紹介するのは、いろいろな意味での私の息子のような人物です。すなわち、傲慢で、思知らずで、無礼な男です。(真面目にご紹介します…)

山岸・L.G.Perkinns (1999: 65)

聞き手は「息子のような人物」と聞いて、誉め言葉を予想するが、逆のけなし言葉に肩すかしを食う。ところが冗談だとわかり面白がるのである。但しこの場合は、紹介する側とされる側が親しい間柄であることが条件である。

4-3 大げさな表現

英語には大げさな表現が多い。Thanks a million. / Thousand apologies といった表現がすぐ浮かぶ。この他、I’ll kill for Coke. (コーラが飲めるなら何でもするよ)、Over my dead body! (絶対にダメだ!)、I’m dying to know her past. (私は彼女の過去が知りたくてたまらない) など、大げさな表現がやたら多い。こういう表現を修辞学で hyperbole (誇張法) と言う。英語国民は物事を大げさに表現するのを好み、杉田 (1978: 91) によると、「誇張法を取り入れた話法は、メリハリがあり、相手にドラマチックに要点を印象づけたり、コミカルな効果を出したりすることもできます」実際、英語母語話者は日常会話の中で誇張的な表現をよく用いてユーモラスな会話を楽しんでいる。

次の英国人の会話例を見てみよう。寒い中、バスを待っている2人の友達が冗談を言って何とか暖まろうとしている。

A : Is this bus never going to come? I’m freczing to death.

B : Probably not. How long have we been waiting now?

A : I don’t know. Feels like hours.

B : ...Look, I’ll tell you what, when we get to town I’ll treat you to a cup of something hot.

A : If I live that long.

B: Well if you don't, I promise suitably upset at your funeral.

A: Now that's what I call a real friend.

(下線は筆者によるもの)

A: このバスは永遠に來ないんじゃないかい?
凍死んじゃないよ!

B: いや, 来るだろう. どのくらい待っているんだい?

A: わかんない. 何時間も待っている気がするな.

B: …ほら, 町に着いたら, 温かいものをおごるよ.

A: それまで生きていたらな.

B: もし生きていなかったら, お葬式でちゃんと泣いてやるから.

A: それでこそ, 本当の友達だ.

小林/ドミニク (2001: 136)

freezing to death「凍えて死にそう」は誇張表現。If I live that long「それまで生きていたらな」は, かなりの誇張。これに対してBもユーモアで受け答えしている。

このように, 英語国民はお互いにオーバーな表現を用いて会話(言葉のキャッチボール)を楽しむのに慣れている。

5. 考察

5-1 ユーモア感覚(Sense of Humor)

ALTをはじめとする英語母語話者と付き合っていると, 彼らとのコミュニケーションでユーモア感覚が欠かせないのを実感する。彼らにとって, 「ユーモアは人間関係をスムーズにする潤滑油のようなもの」(Humor is lubricant of human relationship)なのである。英語母語話者は子供のときからユーモア感覚を身につける訓練を受けていて, いつもジョークやユーモアを言って気取らない気さくな人間になろうとしている。ユーモアのセンスがない人はbore(堅苦しくて社交的にも退屈な人)だと敬遠されるからである。

ところが, ユーモア感覚は日本の英語教育で(国語教育でも)殆ど教えられていない。例えば, 私が扱ったいくつかのオーラルコミュニケーションのテキストの中で私が出会ったユーモア表現は, I heard a lot about you. と言った相手に, Nothing bad, I

hope. と返事する部分ぐらいである。

シリアスな人にユーモアは通じない。一般に, 日本人に関しては, 「社交性に乏しく退屈」「真面目で勤勉だが, 人間的な面白みがない」等, よく言われる。英語教育についても, Japanese people take their English studies too serious. とALTから指摘されたことがある。私たち日本人が英語を話すとき, 私たちの態度は欧米人にはシリアスに映りがちであり, ユーモアを交えて会話を楽しむどころではない。もっとALT相手でも授業でも, ユーモアを交えて会話を楽しいものだろうか。

5-2 ユーモアの実践

村松(1996: 237)によると, コミュニケーションはスキルで, ユーモアのセンスは訓練によって得られる, という。英語でユーモアの言える人は英語が上手だ, と言われるが, 阿部(1984: 3)の言うように, 「ユーモアが通じる通じないは単にことばだけで決まるものではなく, 「気持ち共有すること」(empathy)が必要なのである」私たちは別にプロや名人のように, ユーモアを言う必要はない。各人, 気負わず, 自分の英語力に応じて, ジョークやユーモアそれも短く手頃なものから言えるようにしたらよいと思う。そのためには, 日頃から職場や授業でこう言うように楽しくなると思われる表現やフレーズを用意しておくことが大切だ。ジョークやユーモアにはある程度スキルもある。そんなスキルをいくつか挙げてみたい。

○わざと逆のことを言う

- (悪い天気の時)Such a nice weather, eh?
- (冷たくてイヤミな人)Nice warm guy.
- (パンクスタイルの生徒に)

Such a nice hairstyle!

- (化粧をしまくった生徒に)

You are so attractive[beautiful].

- (授業で寝かかっている生徒に)You're fully awake, thank you for your attention.
- (授業中, 落ち着きのない生徒に)

Don't be so excited.

○誉める——楽しくユーモラスな雰囲気になる。誉め言葉も楽しい人間関係の潤滑油となる。授業では効果抜群である。

- (男の子)You are such a handsome boy.

- (おしゃれな生徒に)
You have a good taste in clothes.
- (掃除などで責任感のある生徒に)
You are such a good boy [girl].
- (良いアイデアを出した生徒に)
That's wonderful idea.
- (よく笑う生徒に)
Thank you for your nice smile.
その他 How nice! / Terrific! / How smart you are! / I like you! / I love you!

次に、短く手頃なユーモア表現を挙げてみる。状況に応じて使ってみよう。

- (急いでいる人をからかって) Where's the fire?
- (落ち込んでいる人を励ますとき)
Cheer up! *It's not the end of the world.*「元気出さない。この世の終わりじゃあるまいし」
- (授業中マンガを読む生徒に)
You're crazy about comics.
- (夜更かしをする生徒に)
You are a night owl, aren't you?
- (切れて文句を言い出した生徒に)
Smile when you say that.
- (疲れて頭がはつきり動かないとき)
My brain doesn't function very well.
- (乾杯するとき)

Here's looking at you, kid.「君の瞳に乾杯」
自分の経験から、以上述べたようなユーモア表現の多くは、英語の得意不得意にかかわらず、どの生徒にもよく通じて生徒との良好な人間関係に役立ってきた。

6. おわりに

このレポートへの取り組みを通して、私なりにジョークやユーモアへの理解が深められ、今更ながら英語母語話者とのコミュニケーションにはユーモアのセンスが欠かせないことを実感している。レポートの中身については、紙面の関係もあり書き尽くせなかった点も多いが、当初の目標に沿って、何とかまとめられたと思う。私自身ユーモアへの興味が益々高まっているが、ユーモアのセンスは日本語・英語にかかわらず周囲の人たちとの温かい人間関係を楽しむのに不可欠であると思うようになった。つまるところ、Reader's Digest 誌の Laughter, the

Best Medicine 欄のタイトル通り、「笑いは百薬の長」である。「ミスター・ノウエはユーモアの効き目もなく、もうあっけなくあの世に行ってしまった」と言われぬように、せいぜい肩肘張らずにユーモア感覚で行きたいと思う。

References

- 阿部 一. 1984. 『英語で笑え』ジャパンタイムズ。
阿部フォード恵子. 2001. 『教室ふれあい英語表現集』ピアソン・エデュケーション。
加島祥造. 1986. 『アメリカン・ユーモアの話』講談社。
工藤明子. 2002. 『誰も教えてくれなかった日本一億いたくな 18 パターンの英会話』かんぼう。
郡司利男. 1982. 『英語ユーモア講座』創元社。
小林章夫／ドミニク・チータム. 2001. 『イギリス英会話を愉しく学ぶ』ベレ出版。
小林章夫. 1990. 『イギリス紳士のユーモア』講談社。
里中哲彦. 2000. 『英語の迷言・放言・大暴言』丸善。
杉田 敏. 1978. 『アメリカン・ユーモアの構造』朝日イブニングニュース社。
杉田 敏. 1988. 『英語で読むおもしろ和洋小ばなし』三笠書房。
鈴木 進／岩田道子／L.G. パーキンス. 1993. 『アメリカン・ユーモア』丸善。
遠山 顕. 2001. 『脱・英語人間』NHK出版。
トミー植松. 2001. 『パーティージョークを楽しもう』丸善。
松永大介「学校英語ではわからない英語の常識」(講談社, p.241)
丸山孝男. 2002. 『英語ジョークの教科書』大修館。
宮原盛也. 1996. 『外国人を笑わせろ!』データハウス。
村松増美. 1996. 『指導者たちのユーモア』サイマル出版会。
村松増美. 1999. 『だから英語は面白い』PHP。
山岸勝榮. 1998 『ユーモア英語のすすめ』丸善。
山岸勝榮／L.G. パーキンス. 1999. 『スピーチのためのユーモア』丸善。
リサ・スティッグマイヤー. 2002. 『心に残る英語』日本文芸社。